

農村政策フェローの活動状況

～ 令和元年度・2年度活動実績及び令和3年度計画 ～



令和3年2月

紫波町産業部産業政策監

はじめに

紫波町では、平成31年4月に産業部内に産業政策監を設置し、新たに農村政策フェローを設置しました。

産業政策監の設置目的は、産業部内の重要かつ緊急な政策課題の解決や横断的な取組を推進し、農商工・観光、食産業等の地域産業の振興と地域内経済循環を図り、農村の活性化に資することです。

また、農業をはじめ産業の抱える課題は多様であり産業活性化のためには、時代を先取りした政策提案能力、実践力が求められていることから、産業政策監では農村政策フェローを設置し、専門的な見地から部内横断的な課題を調査研究し、各課連携のもと施策を講じていくこととしています。

設置後2年間経過し、農村政策フェローとしての具体的な活動実績ができましたので、令和3年1月21日に農村政策フェロー活動報告会を開催しました。

本報告書は、活動報告会で説明した資料をまとめたものです。

2年間の活動経過を大まかにいうと、令和元年度は、農林課業務の支援として、人・農地プランの見直しのための研修会での情勢報告、認定農業者の経営改善指導のためのデータベース作成、新規転作作物としての子実用トウモロコシの導入可能性調査と研修会開催、産直の販売額維持に向けた農業体験農園の設置支援などです。

令和2年度からは、令和元年度に取り組んできた内容を「農地有効活用リーディングプロジェクト」として体系化し、①子実用トウモロコシの産地化、地域の農地を一元的に管理する一般社団法人の設立、③農業体験農園の設立の3つのリーディングプロジェクトとして先行的に実施しています。

また各種施策の立案や推進のために2年間で実施してきた調査研究を「産業政策監調査研究報告」とし取りまとめて、町のホームページで公表を始めました。

産業政策監調査研究報告の主な内容と施策との関連は25ページのとおりです。

なお、本報告書に記載している令和3年度以降に実施を予定しているリーディングプロジェクトは、あくまでも現段階の案ですので留意願います。

目次

はじめに

- 1 農村政策フェロー活動報告会開催要領……………1
- 2 報告会資料……………2
- 3 産業政策監調査研究報告の主な内容と施策との関連……………25

おわりに

1 農村政策フェロー活動報告会開催要領

(1) 目的

産業政策監と農村政策フェローは、平成31年4月に全国で初めて設置されました。

設置当初、設置の目的は掲げられていましたが、具体的に実施する内容が明確になっていませんでした。

設置後2年間活動し、具体的な活動実績が出てきましたので、関係する皆さんに活動内容を紹介いたします。

また、今後の産業政策監と農村政策フェロー活動について関係者の皆さんのご意見を伺います。

(2) 開催日時

令和3年1月21日（木）15：00～16：00

(3) 開催場所

役場庁舎2階 201会議室

(4) 開催内容

①活動実績報告（15：00～15：50）

産業政策監 農村政策フェロー 小川勝弘

②意見交換（15：50～16：00 座長：阿部産業部長・産業政策監）

出席者による意見交換

③講評 町長

(5) 参集範囲

町長、副町長、企画総務部長、産業部長、建設部長（前産業部長）

産業部各課長・各室長、農業委員会、紫波町農林公社

その他関心のある職員

2 報告会資料

<組織的な位置づけ>

◇産業政策監

産業部の複数の課にわたる政策の調整並びに課題を解決するための指導及び支援に関すること

◇農政推進専門委員設置規則(平成31年度)

専門委員は、町長が委託した事項について調査、研究し、助言を行う。

◇紫波町非常勤職員に関する規程(平成31年度)

職名:農村政策フェロー

職務:地域農業の担い手確保及び育成における指導及び支援並びに農業農村の活性化の推進に関すること

◇紫波町会計年度任用職員に関する規程(令和2年度～)

職名:農村政策フェロー

職務:地域農業の担い手確保及び育成における指導及び支援並びに農業農村の活性化の推進に関すること。

★産業政策監 農村政策フェローは全国唯一か(ネットを検索しても出てこない)

<紫波町農政の展開方向>

◇紫波町総合発展計画

目指す将来像 暮らし心地の良いまちづくり

循環型のまちづくり×協働のまちづくり×多様性のあるまちづくり

【自然・産業】豊かな環境と町の魅力を生かしたなりわいがあるまち

(環境)自然を守り、環境に負荷をかけない取組みを推進します

(農業)農業所得の向上と農村環境の維持向上に取り組めます

(森林・林業)森林の有する多面的機能を維持し、森林資源の保全・活用を進めます

(商工業)地域の特性を生かし、今ある価値を高めながら商工業の振興に取り組めます

(観光交流・定住)豊かな地域資源を生かして内外のつながりを広げます

(雇用・就労)地もとで安定して、安全に働き、能力を発揮できるように取り組めます

◇紫波町農業振興計画

<目標:「生き生きと取り組める農業の確立」と「みんなが住んでみたくなる農村づくり」>

基本方針 農業所得の向上と経営の安定化

農村環境整備と農村コミュニティの維持向上

- 施策
- 1 農業の担い手・安定的な就業の場の確保
 - 2 循環型農業・農畜産物の安定供給
 - 3 農地の有効活用
 - 4 農業生産基盤の整備
 - 5 地域資源の活用・保全管理

＜令和元年度スタート後 窓口に寄せられた要望を課題化＞

- ＜農林課＞ ⇒ 人・農地プランの実質化をどうするか？ 集落営農の法人化をどうするか？
⇒ 令和3年度に小麦の産地づくり交付金が廃止されたら1億円交付金が減額するどうするか？
⇒ 小麦に代わる新規転作作物をどうするか？
⇒ 認定農業者の経営指導をどうするか？

＜団体＞

- JAいわて中央 ⇒ 転作作物に子実用トウモロコシを取り入れるために、何を検討すればいいのか？
盛岡地方もち小麦の郷づくり研究会 ⇒ もち姫の産地化をどうすすめていけばいいのか、農家の所得は？

＜組織＞

- 産直組合長 ⇒ 組合員が高齢化し販売額が減少、販売額を増やすには、どうすればいいのか？
集落営農組織代表者 ⇒ 集落営農組織を一般社団法人形態で法人化したいが、どうすればいいのか？

＜個人＞

- 6次産業化事業導入希望者 ⇒ 野菜用の乾燥機械を導入したいが、事業計画をどうつくればいいのか？
認定農業者・新規就農者 ⇒ 新たな収益源に農業体験農園を考えているがどうすればいいのか？
女性起業希望者 ⇒ ハーブと地元のドライフルーツでハーブティーを商品化したいがどうすればいいのか？

＜令和元年度の主な活動内容＞

◇農林課業務の支援

- ・人・農地プラン見直し支援(人・農地プラン作成資料ナビ作成)
- ・新規転作作物導入支援(子実用トウモロコシ導入)
- ・認定農業者指導支援(経営改善計画認定申請書様式改正、認定農業者関係データベース作成)

◇調査報告書作成、研修会開催

- ・人・農地プランを巡る情勢
- ・子実用トウモロコシを巡る情勢、子実用トウモロコシ導入可能性
- ・農業体験農園を巡る情勢
- ・紫波町のもち性小麦「もち姫」の経済的分析
- ・ズッキーニのマーケティング分析

◇リーディングプロジェクト化

- ①子実用トウモロコシの産地化
- ②農地を一元的に管理する一般社団法人の設立
- ③農業体験農園の設置

<令和2年度の主な活動内容>

◇リーディングプロジェクト推進

①子実用トウモロコシの産地化

- ・(農)水分農産で実証圃設置 面積1.4ha、単収(湿田432kg～598kg、乾田793kg～883kg、全体平均631kg)
- ・(株)島山畜産で給与試験(令和3年1月～)
- ・紫波町産地づくり交付金創設 25,000円/10a おそらく全国最高単価

②農地を一元的に管理する一般社団法人の設立

- ・一般社団法人里地里山ネット設立(令和2年9月)
- ・特定農業法人認定(12月21日)
営農型の一般社団法人は、岩手県では初、全国5番目、一般社団法人の特定農業法人は全国初

③農業体験農園の設置

- ・古館農業体験農園の設置運営支援、農業体験農園シンポジウム開催(11月15日)、農業体験農園は東北初

◇産業政策監調査研究報告 作成公表

【ねらい】課題と対策の明確化、認定農業者や関係機関との情報共有化、研究機関との情報共有円滑化

第1号「紫波町認定農業者の定量分析と農地の需要見直し」(令和2年10月)

第2号「紫波町の農業経営体数の予測と農地の需給見直し」(令和2年12月)

第3号「農業体験農園シンポジウムの開催状況」(令和2年12月)

第4号「古館農業体験農園の取組状況と盛岡市市民の農業体験農園の意向」(令和2年12月)

第5号「紫波町の農業生産構造動向分析」(令和3年1月)

<人・農地プランの実質化に関連して実施した活動内容>

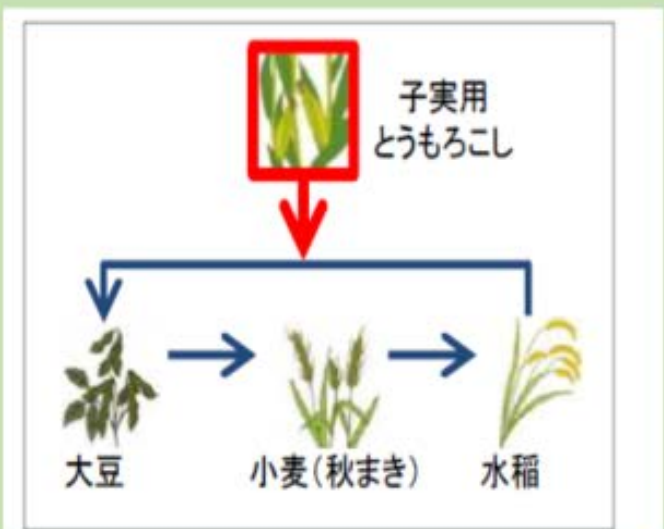
項目	作成した資料	活動内容
経営体	<ul style="list-style-type: none"> ・人・農地プランを巡る情勢 ・農業経改善計画認定申請書様式改良 ・産業政策監調査研究報告第1、2、5号 ・人・農地プラン作成資料ナビ作成 ・認定農業者関係データベース作成 ・紫波まるごと農場方式 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会で説明(3地域) ・経営改善支援センター会議で活用 ・一般社団法人里地里山漆立ネットの設立支援
経営方式 新規作物	<ul style="list-style-type: none"> ・子実用トウモロコシを巡る情勢 ・紫波町子実用トウモロコシ産地確立戦略 ・産地交付金25,000円創設資料作成 ・紫波町もち性小麦もち姫の経済的分析 ・ズッキーニのマーケティング分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・花巻市盛川農場視察 ・子実用トウモロコシ導入可能性研修会開催(R1.12.17) ・栽培検討会(R2.12)、畜産検討会(2.20)、乾燥検討会(4.9) ・播種実演会(5.8)、収穫調整実演会(8.28) ・水稻直播及び子実用トウモロコシ普及促進会(東北農研、県、町) ・JAと意見交換実施 ・JAと意見交換実施
経営方式 新たなビジネス	<ul style="list-style-type: none"> ・農業体験農園を巡る情勢 ・古館農業体験農園設置運営資料作成 ・産業政策監調査研究報告第3号、4号 	<ul style="list-style-type: none"> ・古館農業体験農園設置支援(R1秋試行、R2春設置) ・農業体験農園シンポジウム開催(R2.11.15)
経営方式 6次産業化	<ul style="list-style-type: none"> ・6次産業化事業計画作成支援シート作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・女性グループ起業化支援 ハーブ&ドワイフルーツを使ったハーブティー開発 花の加工(プリザーブドフラワー)&アレンジメント教室 民間企業と連携したわさびバーガー開発(紫波わさびバーガー) ・佐比内ふる里加工施設経営改善指導(原価計算、SOWT分析)

＜農地有効活用リーディングプロジェクト＞

プロジェクト名	プロジェクトの概要	適用地域
子実用トウモロコシの産地化	今後、離農により大量に供給されてくる水田を有効活用するため、新たな水田活用作物として省力的な子実用トウモロコシの産地化を進めています。子実用トウモロコシは水稲の1/20の作業時間で栽培可能、町内の畜産農家と連携しながら、地域内の資源・経済循環をめざします。	西部地域（水分、志和） 中央部平坦地域（赤石） 東部平坦地域（彦部、長岡西部）
地域の農地を一元的に管理する一般社団法人の設立	中山間地域の農地の荒廃を防止するため、地域の農地を一元的に管理する一般社団法人の設立を進めています。 一般社団法人は、農事組合法人と異なり、土地持ち非農家を含めた組織化が可能です。 農地中間管理事業を活用し、地区の農地をまるごと借り受け一元的な営農を行います。	西部地域中山間地域（水分、志和） 東部準平坦地域（佐比内、赤沢、長岡東部）
農業体験農園の設置	高齢化により産直に出荷できなくなった産直組合員の遊休農地を活用し、消費者が農業に親しめる農業体験農園の設置を進めています。 農業体験を通じて消費者と交流しながら農業への理解を進めるとともに、産直への新たな出荷者の確保につなげます。	中央部平坦地域 住宅地周辺（日詰、古館、赤石）

リーディングプロジェクト①

＜子実用トウモロコシの産地化＞



<子実用トウモロコシを水田転作で栽培する意義>

- ◆作業時間が極めて少ないことから、高齢化に伴う担い手不足のもとで、農地を有効活用できる。
- ◆1時間当たりの労働生産性は、米、小麦、大豆より高い。
- ◆小麦栽培圃場に子実トウモロコシの輪作体系を取り入れることにより小麦の単収向上が期待できる。
- ◆トウモロコシは多くのふん尿を還元できる。
- ◆紫波町内の畜産農家と連携し、非遺伝子組み換えの地場産飼料で飼育した牛、豚、鶏をプレミアムブランドとしてブランド化できる可能性がある。
- ◆飼料生産、畜産物生産、ふん尿の還元を町内で実施することにより、紫波町内の資源循環促進と物流コストの低減が図られる。

<主食用米と子実用トウモロコシの所得比較>

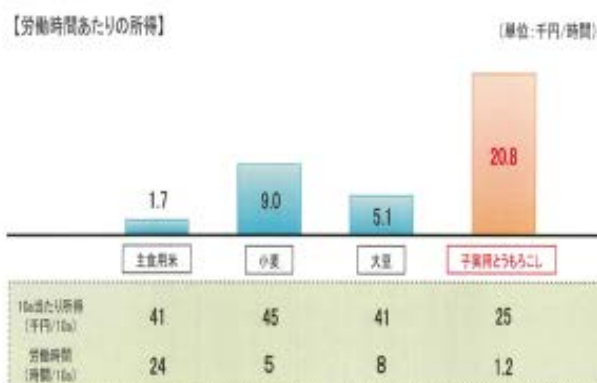
- ・土地生産性は主食用米の61%と低いが、労働時間は5%、**時間当たり所得は12倍**
- ・大規模化で所得確保（1haで25万円、10haで250万円、100haで2500万円）

	①主食用米	②子実用トウモロコシ	②÷①
10a当たり所得	41,000円	25,000円	61%
10a当たり労働時間	24時間	1.2時間	5%
労働時間当たり所得	1,700円	20,800円	1223%

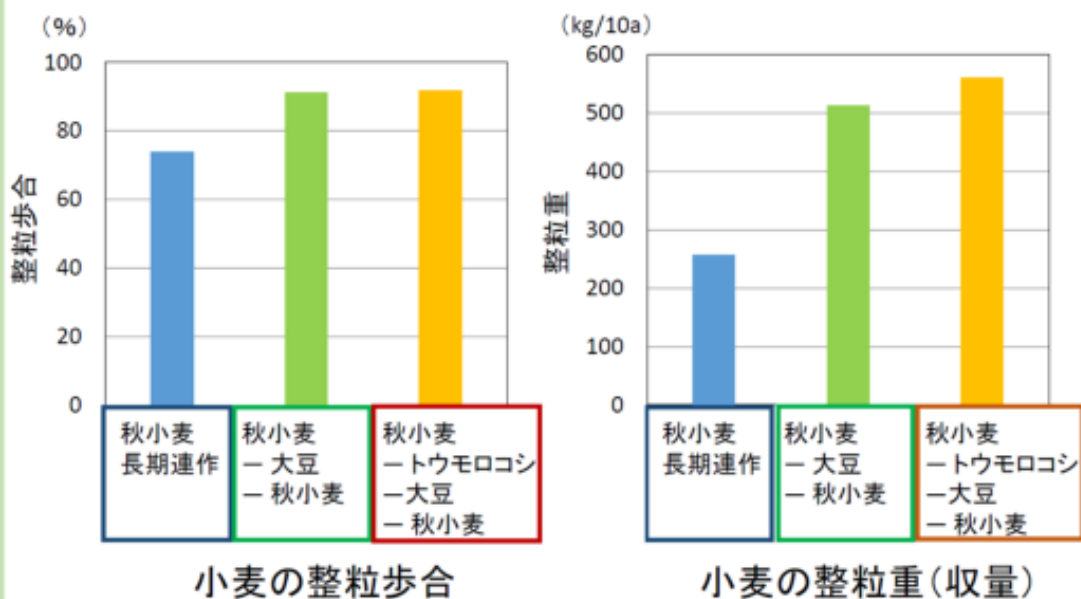
出所：農林水産省資料

主食用米と子実用トウモロコシの所得比較

○ 子実用トウモロコシの10a当たりの所得は、主食用米等と比べ少ないが、**面積あたりの労働時間が極めて少なく、時間当たりの所得は主食用米に比べ高水準**。雇われた労力で規模拡大を進めるには有効な作物。



子実用トウモロコシを組み入れた輪作の効果



(富沢(2016)より作成) 47

<支援体制と主な役割>

- (1) 東北農業研究センター
 - ① 子実用トウモロコシ産地化総合支援、栽培・給与技術指導
 - ② 機械実演会開催
- (2) 紫波町
 - ① 産地化の推進
 - ② 紫波町産地づくり交付金制度メニューに子実用トウモロコシ創設
 - 導入期(～50ha) 25,000円/10a(播種機、コンバインの導入が必要)
 - 拡大期(50ha～200ha) 20,000円/10a(稲作所得との差額補填)
 - 安定期(200ha～) 20,000円/10a(単収向上取組支援、目標800kg/10a)
 ※国 戦略作物助成 35,000円/10a 耕畜連携 13,000円/10a
 - ③ 乾燥・貯蔵施設確保に向けた意見集約
- (3) いわて中央農業協同組合 畜産農家とのマッチング、流通支援
- (4) 農業機械メーカー(クボタ、ヤンマー)
 - ① 播種機及びコンバイン実演
 - ② 機械化体系導入支援、乾燥施設導入支援
- (5) 種苗会社(パイオニア エコサイエンス(株)) 紫波町に適した品種導入支援

<令和2年実証試験結果>

水分農産収量 湿田432 k g ~ 598 k g、乾田793 k g ~ 883 k g、全体平均631 k g
 乾田部分では既に令和4年目標を達成、今後湿田での単収向上を図る

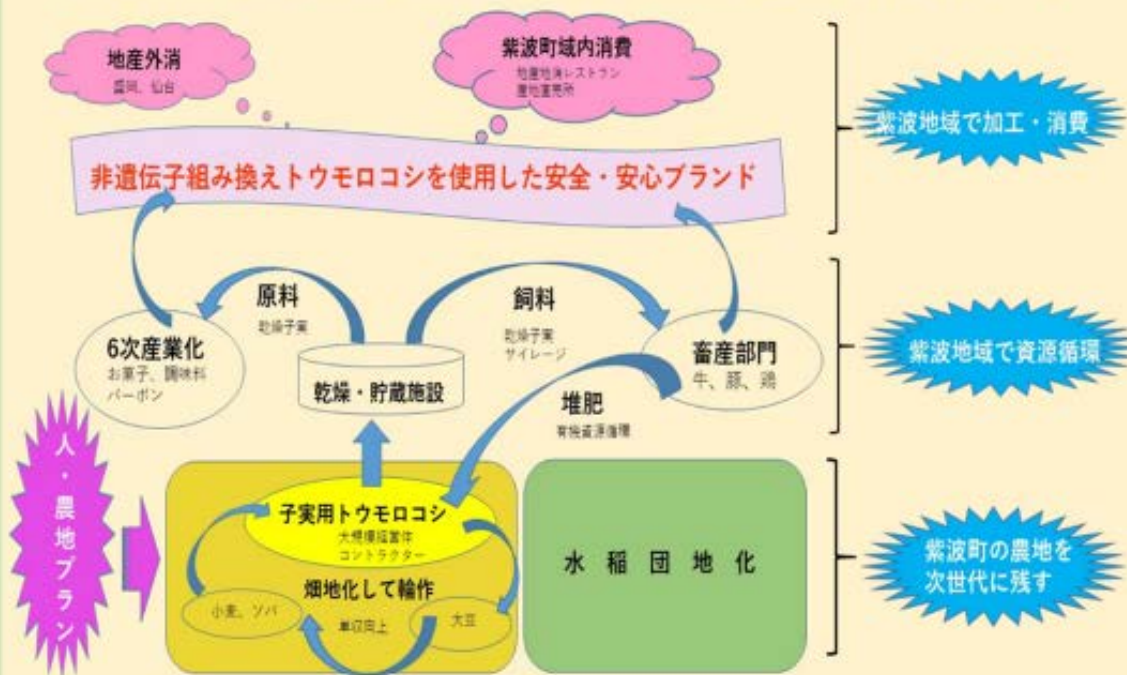


水稻直播及び子実用トウモロコシ普及促進会
 (東北農研、岩手県、紫波町等)

令和4年度目標
 作付面積 13ha ⇒ 100ha
 収量水準 800 k g / 10a



子実用トウモロコシの地域資源循環型農業のイメージ



リーディング・プロジェクト②

<地域の農地を一元的に管理する一般社団法人の設立>

- ★愛知県農業振興基金が提唱する「地域まるっと中間管理方式」を紫波町に当てはめた農場方式
- ★非営利型の一般社団法人が紫波町の農地を対象にした営農と地域資源（農地）の管理を行う方式



<一般社団法人 里地里山ネット漆立>

○目的

漆立地区では、ここ1年～2年の間に担い手の死亡や体調不良により、急に営農が出来なくなった農地が発生し、残された農地の耕作者を探すのに苦勞した。また中山間地域の条件の悪い農地の引き受け手がなくて困っていた。このため、地域の農地管理主体として一般社団法人「里地里山ネット漆立」を設立した。（令和2年9月）

○仕組み

漆立集落営農組織の構成員と自作農家の農地をまるごと農地中間管理機構に貸し出し、一般社団法人里地里山ネット漆立が農地中間管理機構から集落の農地をまるごと借り受けて地区の農地を一元的に管理する。地域の担い手との共存を図るため、自作可能な農家には、特定農作業委託契約により担い手に販売権を持たせている。

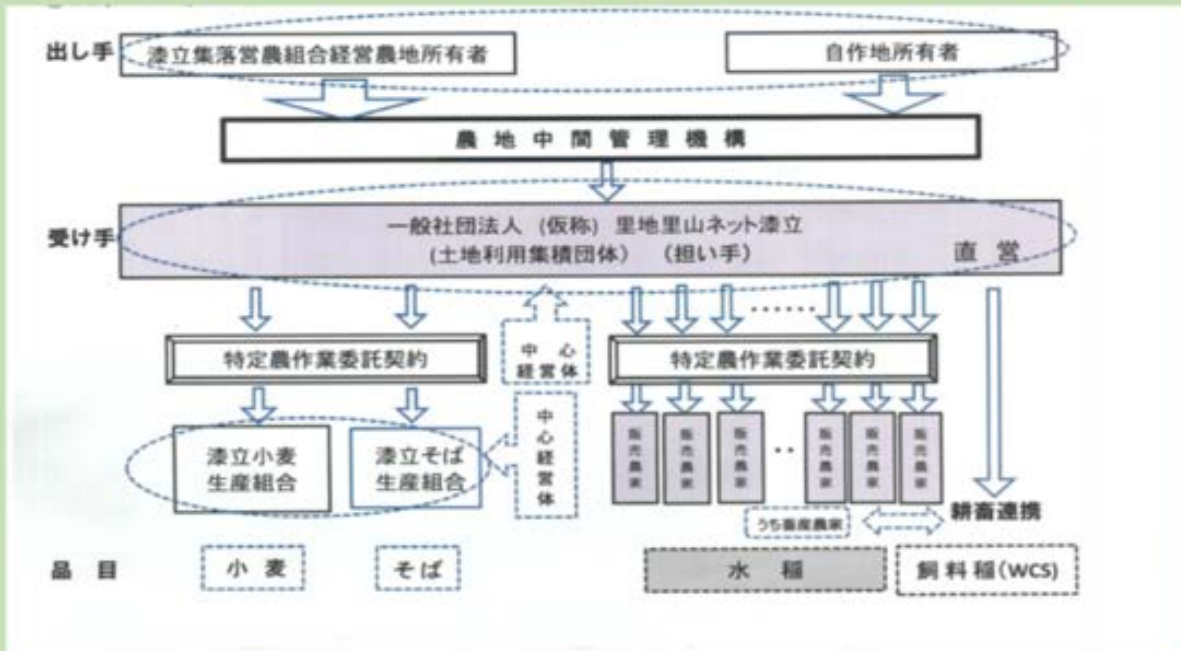
一般社団法人里地里山漆立ネットが地域の担い手となるため、特定農業法人の認定を受けた（令和2年12月）

○補助金

農地中間管理事業を活用することにより、地域集積協力金が交付され法人の運営費や地域の景観や遺跡の保全に活用できる。

- 集落営農組織が一般社団法人形態で法人化するのは、岩手県・東北では初めての事例、全国でも5番目
営農型の一般社団法人が特定農業法人になったのは日本で最初

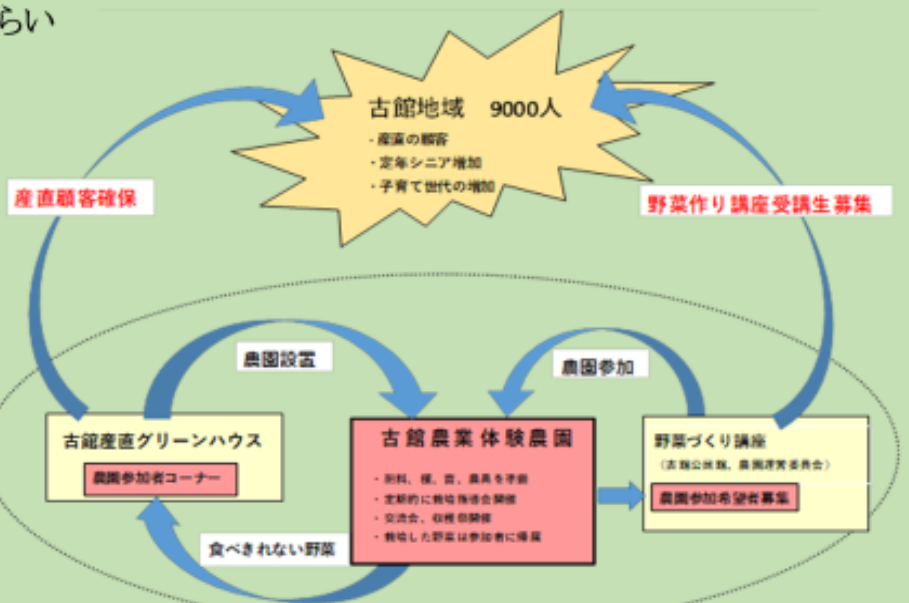
＜一般社団法人 里地里山ネット漆立の事業概要＞



リーディングプロジェクト③ <農業体験農園の設立>

古館農業体験農園の当初のねらい

- ◇古館産直センターは、組合員の高齢化により近年販売額が減少
- ◇一方、古館ニュータウンができた頃に移住してきた住民は、定年退職を迎える時期、今後増加
- ◇定年退職者の中には余暇を活用して、家族への安全安心な野菜を提供したいニーズもある。
- ◇古館産直センターが「古館農業体験農園」を設置し、定年退職者の野菜作りを通じた生きがい対策を行うとともに、将来的な産直への出荷者の確保につなげる。





<古館農業体験農園で得られた成果>

(1) 野菜作りと農家への理解促進

実際に野菜を作ってみて楽しいということと作業が大変だということが理解され、産直で販売されている野菜に多くの手がかかっていることが分かり、価格が安すぎるという感覚を持つようになった。

(2) 食育の推進

子育て世代の親子が野菜作りを体験するために参加し、食育の推進につながった。

(3) 遊休農地の有効活用

農園周辺の農家から遊休化している農地を使ってくれるよう要望があり、当初10aの農園面積が直営部門を含めて最終的に約50aに拡大し、遊休農地の有効利用につながった。

(4) 交流促進

仙台や札幌から移住してきて知り合いをつくることを目的に参加する方もあり、地域の交流促進につながった。

(5) ウィズコロナの新生活様式での新たな余暇提供

農業体験農園は野外作業で感染の危険が少なく、参加者は畑で充実した余暇を過ごすことができ、感謝された。

(6) 農医介護連携

医療関係者（医師、ナース）が、農園に参加したことにより、交流会でコーヒーと健康の話題提供をいただいたり、農園代表者の野菜を医師が関係するグループホームへ直接販売するなど、農医介護の連携が進んだ。

<古館農業体験農園の運営上の課題と対応策>

項目	課題	対応策
参加者募集	・農業体験農園の認知度が低く当初の締め切り時点での申込者は低調だった。	・農業体験農園の仕組みを理解してもらうためのシンポジウム等を開催する。
講習会	・作業内容を口頭のみで説明したために理解しにくかった。 ・講習会では作業内容のみ説明し栽培技術の説明をしなかった。 ・収穫時期が分からなかった。	・講習会では、栽培技術と作業内容について資料を配布して説明する。 ・収穫時期を掲示板等で知らせる。
交流会	・交流会の評価は高かったが、事前の計画がなかった。	・交流会の日程と内容の年間計画をあらかじめ立てておく。
掲示板	・農園に掲示板を設置し講習会日程や作業内容を掲示する計画であったが実施できなかった。	・農園に掲示板を設置してお知らせする。
区画面積	・当初の1区画面積を40㎡で開始したが、最終的に参加者1人当たり50㎡に拡大したため管理に多大の労力を要した。	・1区画面積を全国の一般的な面積の30㎡程度に縮小する。
野菜品種	・葉菜・根菜をそれぞれ複数品種作付けたため、同じ種類の野菜が多くなり消費しきれなかった。	・品目毎の品種数を減らし品目数を増やす。
利用料金	・令和2年度は、利用料金を資材代の5000円としたが、経費が増高し、1000円追加徴収した。	・令和3年度から利用料金を上げる。
産直出荷	・食べきれない野菜を産直に出荷する計画だったが、産直への出荷方法を定めるのに時間を要し、出荷に至らなかった。	・令和3年度は作付時から出荷方法を周知する。

<今後の展開方向>

(1) 農業体験農園と合わせた直営農場の設置

- ・産直での計画的な生産出荷に貢献（品揃え拡充、端境期解消等）
- ・新たな商品提案のための栽培実証
- ・新規就農者のトレーニング

(2) 地域内での直接取引拡大

- ・農園代表者と福祉施設との間で野菜の直接取引を開始。産直の新たな販売先にできないか。
- <生産者のメリット> ・市場流通する規格に合わせる必要が無いので生産と出荷調整作業軽減
 - ・小ロットでも取引が可能、包装資材が不要になり出荷経費軽減
- <消費者のメリット> ・安全安心な野菜を入手可能、朝収穫された鮮度のいい野菜を入手可能、
 - ・市場に出回らない珍しい野菜も入手可能
- <社会のメリット> ・地域で生産消費、流通にかかるエネルギー削減、温暖化防止に貢献

(3) CSA (Community Supported Agriculture) 地域支援型農業との組合せ

- ・生産者と消費者が連携し、前払いによる農産物の契約を通じて相互に支え合う仕組み
- ・生産者と消費者が直接契約し、野菜セットを定期購入、消費者が野菜を引取りに来る
- ・消費者は農作業を手伝ったり、野菜セットの詰め込みを手伝う。

〈古館の新たな産直が目指す コミュニティー共創型農業〉

○コミュニティとは

- ・何かを核として自然発生的に集まった集団
- ・メンバーがお互いの存在に価値を感じ自分の貢献がほかの参加者にプラスに波及していると信じられる状態を有する
- ・特定の目的に限定されない

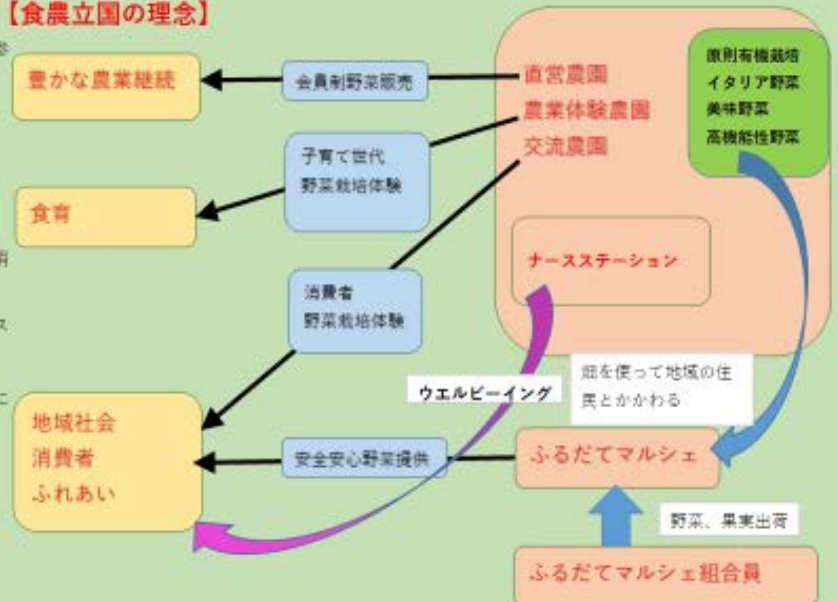
○共有する価値観とは

- ・有機農業：安全安心な野菜を自分で作って食べる。
有機農業で生産された野菜を購入する。
- ・食育：子供と野菜を作って食育
野菜を食べる習慣で将来の生活習慣病予防
- ・地域経済循環：地域で作った農産物を地域で加工し地域で消費する。 **バイ・ローカル**
- ・ウェル・ビーイング：
農業にかかわって、生きがい、**半農×X**、ポジティブヘルス

○Co-Creation 共創とは

- ・多様な立場の人たちと対話しながら、新しい価値を「共」に「創」り上げていくこと。

【食農立国の理念】



〈産業政策監調査研究報告の内容と施策との関連〉

第1号「紫波町認定農業者の定量分析と農地の需要見通し」

平成28年以降認定農業者は微減傾向、新規認定が少ないため高齢化、66歳～70歳が51経営体と最も多い、新規認定が無い場合2030年には70歳以下は46経営体(2020年対比38%)に減少、認定農業者の目標面積から見た農地の需要見通しは343ha

第2号「紫波町の農業経営体数の予測と農地の需給見通し」

紫波町の農業経営体数の予測値は、2030年には727経営体(2015年対比54%)に減少、離農に伴い供給される農地は872ha、認定農業者の需要見通し343haに対し528.6haが過剰になる恐れ、供給過剰率が大きいのは古館、赤沢、佐比内地域
供給過剰になる農地の有効活用方策としてリーディングプロジェクト設定

- ①子実用トウモロコシの産地化、②地域の農地を一元的に管理する一般社団法人の設立、③農業体験農園の設置

第3号「農業体験農園シンポジウムの開催状況」

町内で農業体験農園の取組を増やすために古館農業体験農園の活動状況を紹介

第4号「古館農業体験農園の取組状況と盛岡市市民の農業体験農園の意向」

古館農業体験農園で得られた成果①野菜作りと農家への理解促進、②食育の推進、③遊休農地の有効活用、④交流促進、⑤コロナ禍での余暇提供、⑥農医介護連携

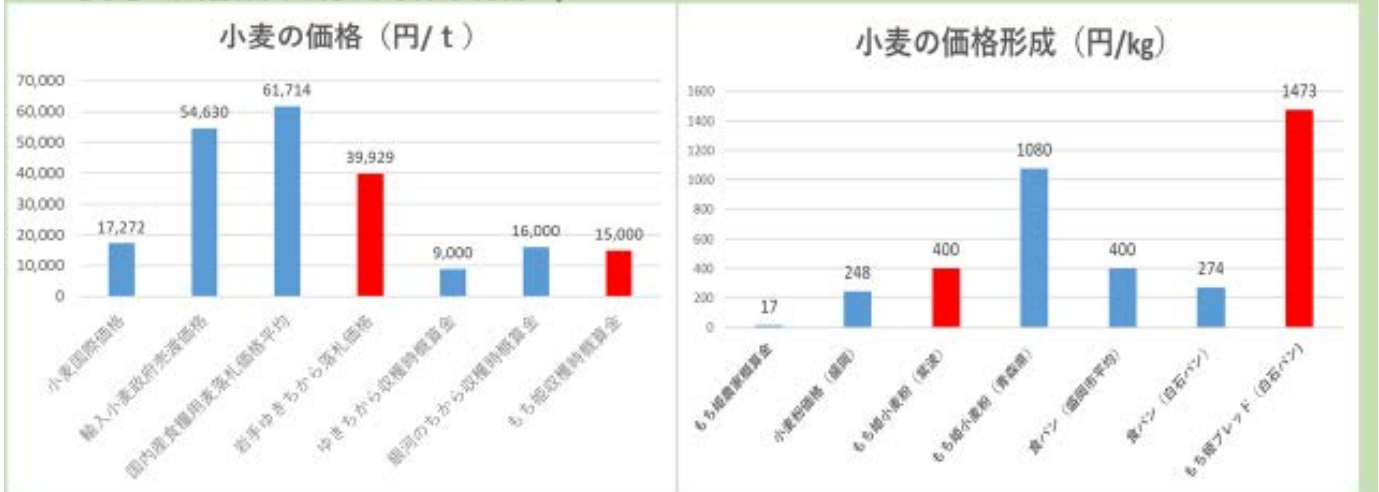
第5号「紫波町の農業生産構造動向分析」

2015年～2020年にかけて紫波町の販売農家数は12.2%減少、県全体の減少率25.1%に比較すると減少率は小さい。
高齢化しても稲作に特化しながら営農を継続、樹園地の面積を縮小しながら営農を継続している果樹類経営体が多い。
2020年の農業経営体数は1,178経営体で予測値の107%、(水分の特異値を除くと103%)と予測モデルの精度は高い。

<施策に反映しなかった調査研究結果>

①紫波町のもち性小麦「もち姫」の経済的分析

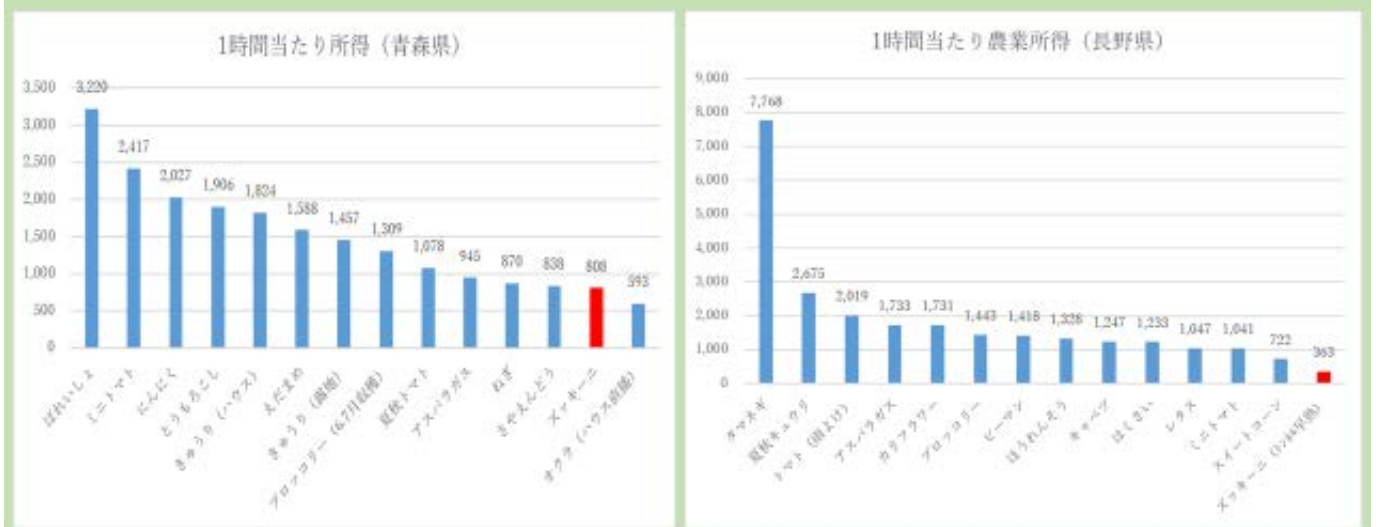
- ・もち姫のJ A購入価格13円/kg⇒乾燥料金30円/kg⇒農家手取り△17円/kg
- ・もち姫粉価格 400円/kg⇒もち姫ブレッド 1473円/kg
- ・もち姫の数量払いは、パン以外のCランクで低い。
- ・もち小麦は低温で粘度が出て高温で粘度が下がるためフォーリングナンバーが上がらず、Aランクになるのは困難である。
- ・もち性小麦は、食感が柔らかいという特徴はあるが、特に機能性があるわけではない。
- ・もち姫の作付面積は令和元年から60haで横ばい。



<施策に反映しなかった調査研究結果>

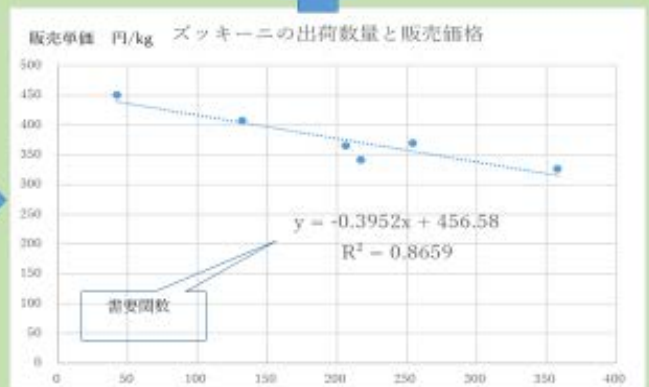
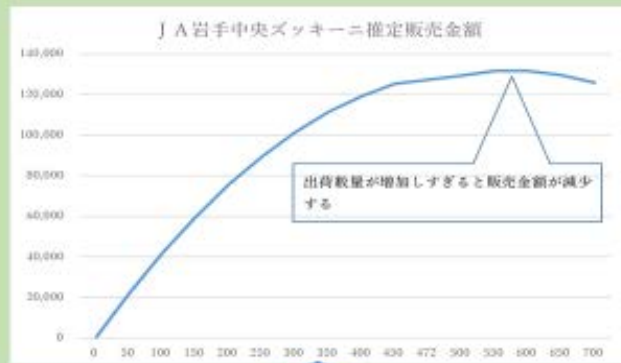
②ズッキーニのマーケティング分析

- ・労働生産性 (1時間当たりの所得) が低い。参考：青森県 808円/時間、長野県 363円/時間、岩手データ無し
- ・J A 岩手中央のズッキーニは、出荷量の増加とともに販売価格が下落、販売金額は1億3千万円程度で頭打ちとなる。



需要関数に基づく需要分析

- ◇ J A 岩手中央のズッキーニの出荷数量と販売価格の関係を計測した需要関数は、右下図の通りで出荷数量が1t増加すると販売価格が0.3952円低下している。
- ◇ J A 岩手中央のズッキーニの販売金額が最大になる出荷数量を試算すると販売金額が最大となる出荷数量は、577tで販売価格は228円/kg、販売額は1億3187万円となる。



<令和3年度の主な活動予定>

1 農地有効活用リーディングプロジェクト推進

- ① 子実用トウモロコシの産地化 (& 農業振興室) → 作付拡大、畜産農家とのマッチング
- ② 地域の農地を一元的に管理する一般社団法人の設立 (& 農政企画室) → 漆立の仕組み調査、町内へ普及
- ③ 農業体験農園の設置 → 古館農業体験農園の運営支援、コミュニティー共創型農業実現支援

2 環境循環リーディングプロジェクト創設

- ① 漆を活用した新たな環境産業の創造 (& 環境課)
- ② 発酵技術を活用した循環型農業創造 (& 農政企画室)

3 農政課業務支援

- ① 人・農地プランの実質化支援 (& 農政企画室)
- ② 目指すべき地域農業経営体の調査研究・普及啓発 (& 農政企画室)

4 産業政策監調査研究報告

紫波町の先進経営体事例集、漆立の仕組み解説書、2020年センサス確定版分析

5 農業と健康長寿プロジェクト仕込み (産業政策監 & 農政課 & 健康福祉課 & 商工観光課)

- ① もち大麦、② 桑食

環境循環リーディングプロジェクト①

<漆を活用した新たな環境産業の創造> & 環境課

<新たな漆の活用>

- ・バイオプラスチック 商品：漆プラスチックカード、車・電車内装
中東からの石油を使わないプラスチック⇒ 輸送の二酸化炭素無
化学合成プロセスのないプラスチック ⇒ 製造過程の二酸化炭素無
紫外線で完全に分解 ⇒ 環境負荷無、海洋プラスチック汚染無
- ・漆染 商品：抗菌マスク、枕カバー 漆の木部を使った染め物には抗菌作用がある

<漆生産イノベーション>

従前：15年生の木から漆かき⇒5年生の木を衝撃波処理し漆液の抽出
一度植栽すると萌芽更新できるため、伐採後の植生が復活しやすい

<漆資源のカスケード利用>

衝撃波で樹液を絞った木 ⇒ バイオマスとして燃料にする
樹液を絞り伐採した木 ⇒ 木工品、漆染の材料

<ふる里納税返礼品>

紫波町の環境循環型社会の創造に理解のある方から納税していただき、漆カード、漆の杯をお返りする。

<循環型里山の復活>

荒廃した里山や中山間地域の耕作放棄地に漆を植えて管理することにより、農村景観の維持と熊・鹿等の来襲防止につなげる。

<新たな林業経営>

漆栽培は、現行のカラマツ栽培より収益性がよく山林を生業にできる可能性

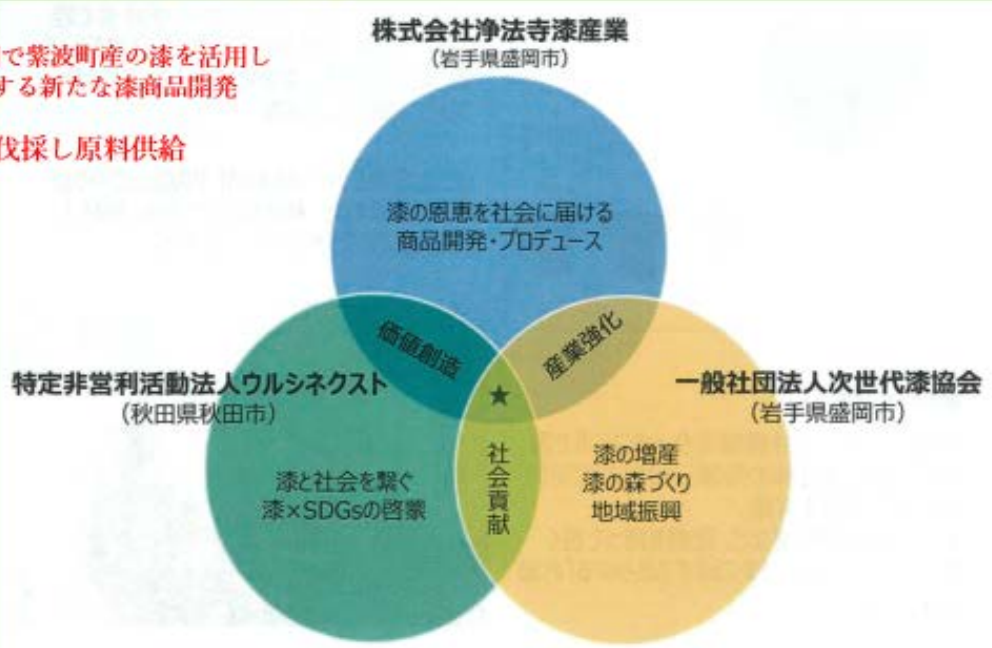
漆とカラマツの収支比較（1 haあたり）



<商品開発のスキーム>

◇ 3組織と共同で紫波町産の漆を活用し
環境に貢献する新たな漆商品開発

◇ 漆の原木を伐採し原料供給



環境循環リーディングプロジェクト②

<発酵技術を活用した循環型農業創造> & 農政企画室

マイムマイム奥州が取り組む循環プロジェクト

①家畜用の米の栽培からスタート⇒②米発酵エタノール生産⇒③もろみを鶏のエサ⇒④卵⇒⑤鶏糞は水田に還元

★米発酵エタノールから作られた化粧品雑貨は首都圏を中心に販売され、地域循環の枠組みを越えた大きな輪が広がっています。



農業生産法人 飼料用米生産



ファームステーション

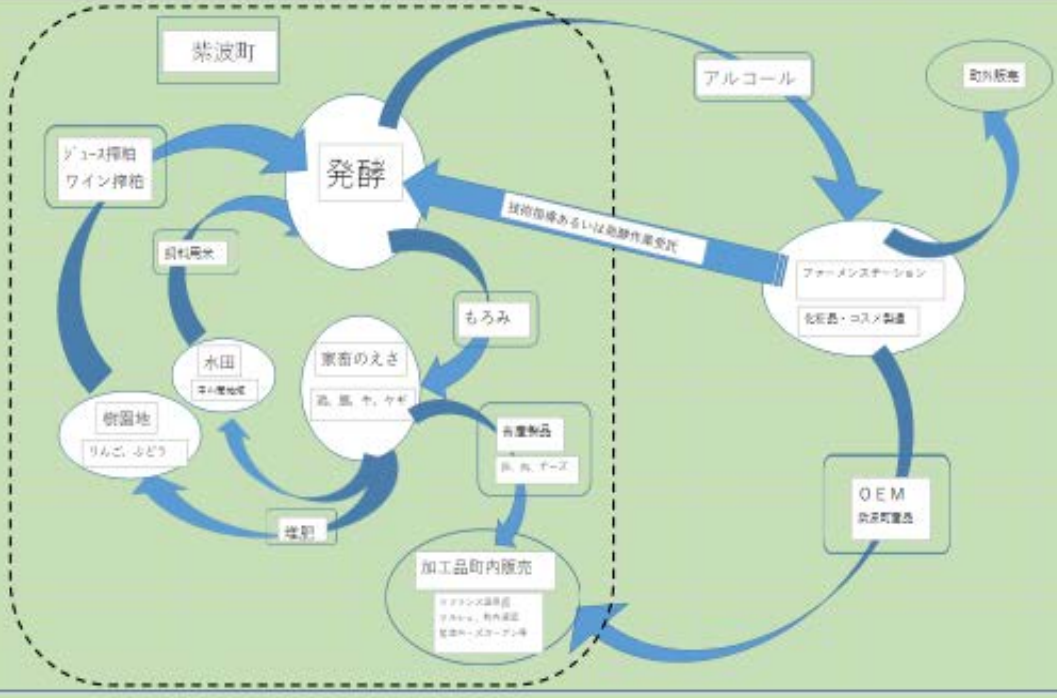


まっちゃん卵

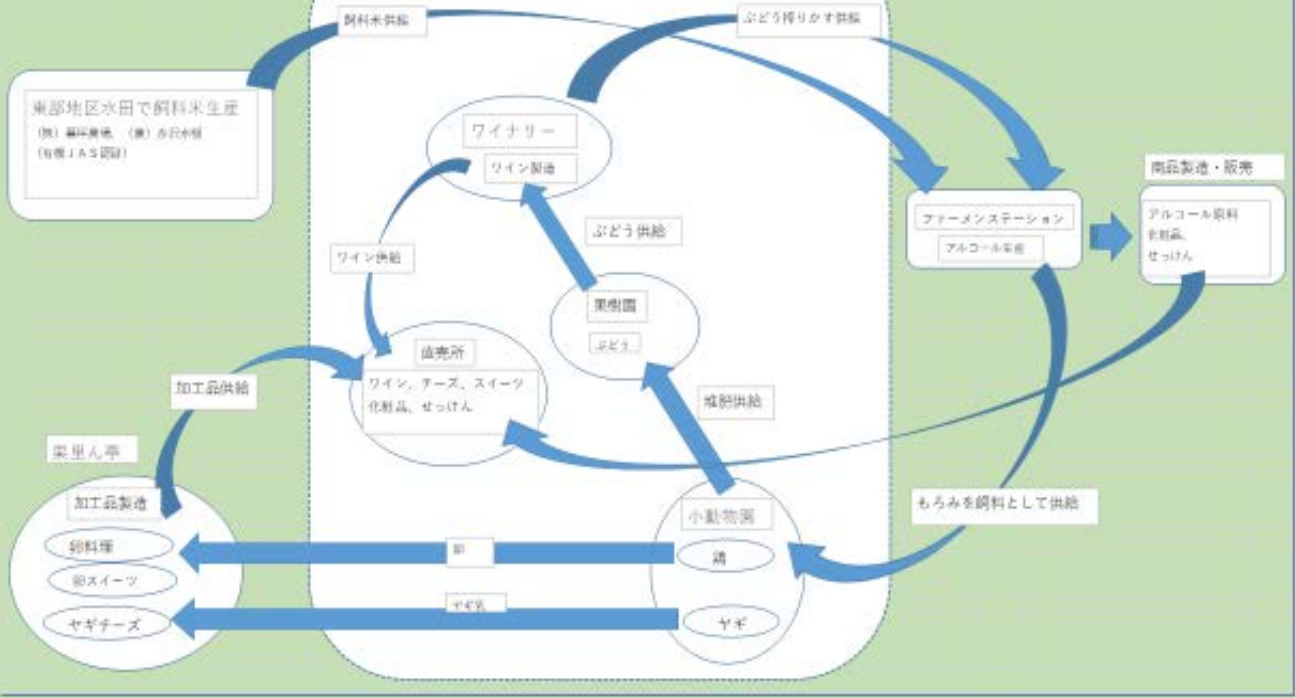


民宿 まよごや 視察受け入れ

- ◇中山間地域の水田で有機栽培に近い安全な栽培方法で生産された米や現在未利用資源となっているりんご、ぶどうのジュースの搾りかすを発酵させてアルコールを生産する。
- ◇アルコールを絞った後のもろみは、家畜の飼料として活用し、高糖製品（卵、肉、チーズ等）を生産する。家畜のふん尿はたい肥にして水田や畑地に還元する。
- ◇生産されたコスメ・化粧品は、町内で販売するとともにふるさと納税のギフトとする。



紫波フルーツパークで実施する場合のイメージ



農業と健康長寿プロジェクトの背景

<紫波町の医療費の52%は生活習慣病>

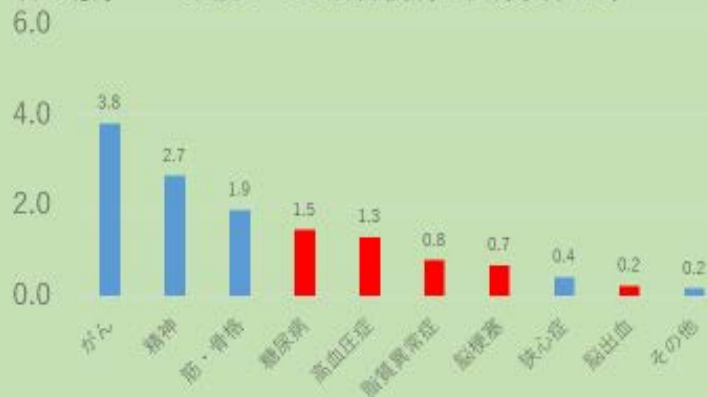
- ・紫波町の医療費の総額は、26億円
- ・このうち生活習慣病にかかる医療費は、13億5千万円で52%を占めています。
- ・生活習慣病を予防することで医療費は、大幅に削減可能です。
- ・もち大麦や桑製品に含まれている成分で効果が期待できるのは、糖尿病、高血圧症、脂質異常症、脳梗塞、脳出血とみられます。
- ・これらの疾病にかかっている医療費の総額は、4億5千万円です。

紫波町の医療費(H28)



単位：億円
6.0

紫波町の生活習慣病の医療費(H28)



<健康長寿プロジェクトの仕込み(大麦)>

大麦を作って農地維持、みんなで食べて健康長寿 (産業政策監&農政課&健康福祉課&商工観光課)



【機会】

- ・紫波町でも栽培可能なもち性大麦「もちしずか」が東北農研で開発された(2018)
- ・もち性大麦は小麦より早く収穫できるので穂発芽の発生抑制に効果がある。
(若手県内の平均の梅雨入りは6月14日頃、梅雨明けは7月28日頃)
- ・成熟期が小麦より早いため 大麦+大豆の二毛作体系が容易になる可能性がある。
- ・多肥栽培で高蛋白質化しても硝子質粒が発生しにくく多収化のための多肥栽培が可能である。

令和2年度紫波町の小麦栽培状況

品 種	栽培面積 (ha)	構成比	産地づくり交付金	令和3年度
ゆきちから	603.2	80%	9,000/10a	廃止
銀河のちから	82.1	11%	9,000/10a	廃止
もち姫	64.7	9%	13000/10a	継続
計	750			

品 種 名	栽培地	収 量	収穫期間	成熟期	アミロース	βグルカン	特徴	登録年	育成元
ひねうまもち	東北	370		6月1日	0	6.2~6.4	6条、硝子率が低い	2016	中央農研
もちしずか	東北	514	80以下	6月18日	5.6	5.7	6条、紫色、穂発芽耐性	2018	東北農研

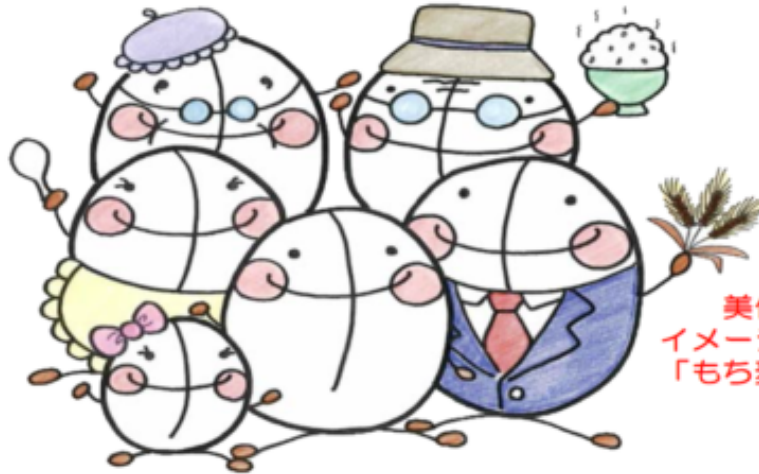
産地づくり交付金総額

ゆきちから5429万円、銀河のちから739万円、もち姫841万円

<ロールモデル>

みまさかし

岡山県美作市 もち麦普及の実際

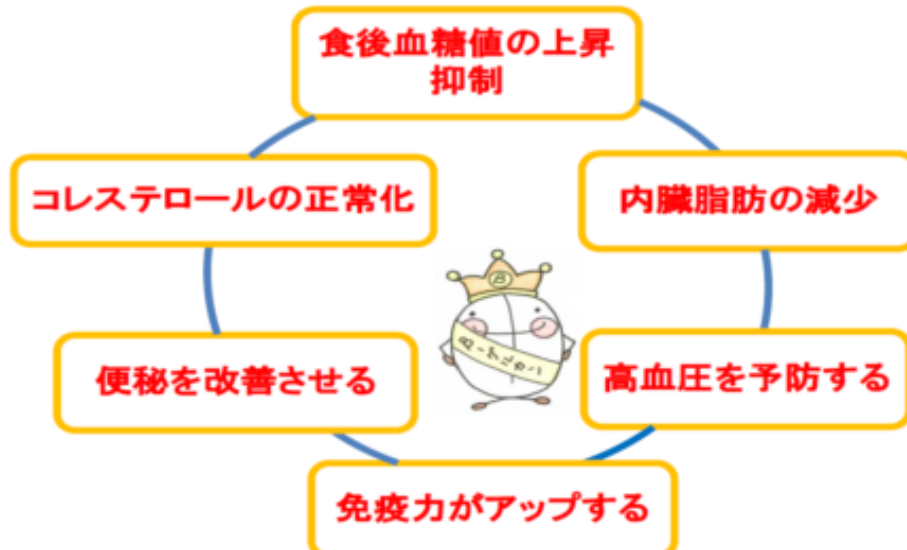


美作市もち麦
イメージキャラクター
「もち麦ファミリー」

美作市保健福祉部健康づくり推進課
管理栄養士 谷口啓子

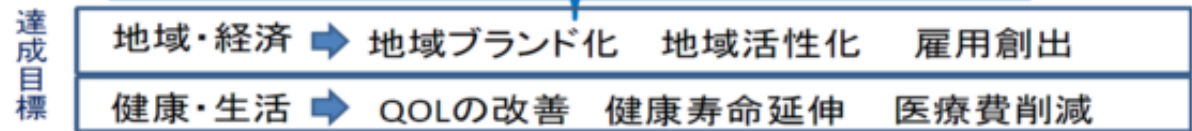
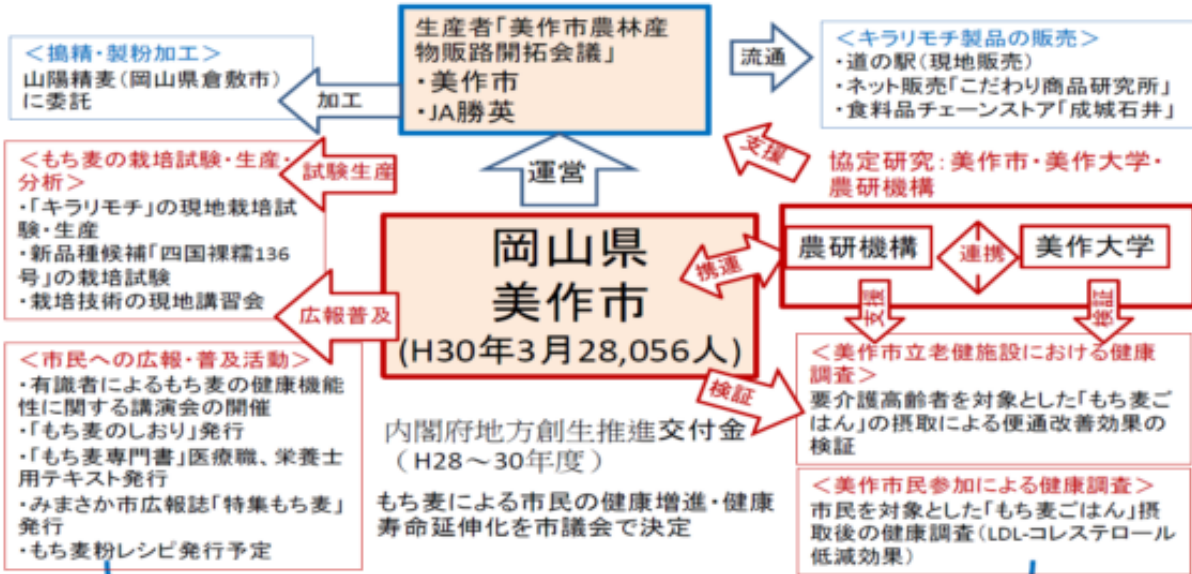
もち麦「キラリモチ」の健康効果に期待！

地方創生推進交付金対象事業 平成28～30年度(3年間)



みなさんの健康づくりをサポートしてくれます

もち性大麦品種「キラリモチ」を活用した地域活性化と健康寿命延伸への取り組み



美作市のもち麦「キラリモチ」推進の実際

地方創生推進交付金対象事業 平成28～30年度(3年間)

年度	調べる		作る		学ぶ		広がる		売る	
	学術	分析	農産生産	ブランド化	セミナー	学習講座	食育普及	携取普及	販売	加工生産
H26年度	調査報告書の策定(美作市の健康)	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産
H27年度	調査報告書の策定(美作市の健康)	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産
H28年度	調査報告書の策定(美作市の健康)	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産
H29年度	調査報告書の策定(美作市の健康)	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産
H30年度	調査報告書の策定(美作市の健康)	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産
H31年度	調査報告書の策定(美作市の健康)	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産	「キラリモチ」の現地栽培試験・生産

<健康長寿プロジェクトの仕込み(桑)>

桑を作って農地維持、桑食で健康長寿 (産業政策監&農政課&健康福祉課&商工観光課)

- ◆桑は古来より健康・長寿に効果があると漢方薬や桑茶に利用されてきた。約1800年前の中国の薬物書「神農本草経」に桑の薬効が書かれている。鎌倉時代に栄西が著した「喫茶養生記」には、桑の飲み方と効能が詳しく書かれている。
- ◆近年、桑の持つ健康機能性が科学的に明らかにされ健康食品として注目されている。

乾燥桑葉100g中のカルシウムは牛乳の27倍、鉄は小松菜の15倍
 桑の実100g中のカルシウムはイチゴの2倍、鉄は他のフルーツの4~10倍

<科学的エビデンスがある効果>

延命効果	: 桑の葉や桑の枝のエタノール抽出液に寿命延伸効果がある。
高血圧抑制効果	: 桑の葉や桑根皮に高血圧を抑制する抗酸化物質がある。
脳機能改善効果	: 桑の葉や実アルツハイマーの原因の一つになるβアミロイドの形成を抑制する物質が含まれている。
血糖値上昇抑制効果	: 桑の葉に血糖値を下げるデオリジノマイシンとフラボノールグルコシドが含まれている。
ガン転移抑制効果	: 桑の実にがんの転移を抑制するアントシアニンが含まれている。
動脈硬化抑制効果	: 桑の葉に動脈硬化を抑制するケルセチンが含まれている。
ダイエット効果	: 桑の葉に肝臓の脂肪蓄積や血糖の上昇を抑えるデオシリノマイシンが含まれている。
美白効果	: 桑根皮にメラニンの形成を抑制するチロシナーゼ阻害物質が含まれている。
便秘改善効果	: 桑の葉に便秘を改善する食物繊維が含まれている。

桑商品開発体系

使用部位	加工方法	分類	商品名	
桑の葉	乾燥	飲料	桑茶	
			桑ジュース(青汁)	
			桑の葉エキス	
	アルコール漬け	リキュール	桑酒	
	パウダー	飲料	桑粉茶	
			洋風スイーツ	桑クッキー、桑ケーキ、桑パン
			和風スイーツ	桑餅、桑だんご、桑大福
			和風食品	桑そば、桑うどん
洋風料理			桑パスタ、桑カレー	
	ジェラート	桑ソフト		
飼料	鶏卵	桑たまご		
桑の実	ジャム	ジャム	マルベリージャム、ゼリー	
		ジェラート	マルベリーソフト	
	アルコール漬け	リキュール	マルベリー酒	
桑の木	木材加工	食器	桑箸、桑スプーン、桑皿、桑椀	
		装飾品	桑お守り、桑じゅず、桑杖	
		家具	桑テーブル、桑タンス	
桑の根皮	粉碎			

<ロールモデル>



平成28年度小規模事業者地域力活用新事業全国展開支援事業
甲斐市桑活用推進プロジェクト活動報告

甲斐の桑物語

南に富士山を望み、甲府盆地を一望する
登美の丘。養蚕が盛んに行なわれていた
昔からこの地で愛されてきた桑。
南向きの斜面に広がる日当たり良好の桑畑
で手間を惜しまず、栽培から収穫まで
すべて手作業で育てられています。

新発売

甲斐の桑茶

ペットボトル
500ml

甲斐の桑茶

甲斐市各店で販売中!

甲斐市観光ルートに是非お加えください。

情かしくて新鮮な **大好評!!**
桑の実摘みを、

甲斐市観光ルートに是非お加えください。

甲斐の桑茶 ペットボトル 500ml 甲斐市各店で販売中!

チラシをダウンロード



桑の葉水餃子
もちもちの食感が魅力!
桑パウダーを練りこんだ、色鮮やかな翡翠餃子



桑の葉ソーセージ
新鮮な国内産豚肉に桑の葉パウダーと炊飯器でもちもちおいしいお赤天然塩、富士山の湧き水で作られた手飯なんと!桑ジャムを使って炊きました! 桑塩かけて…召し上がれ♪



桑の実ごはん
新鮮な国内産豚肉に桑の葉パウダーと炊飯器でもちもちおいしいお赤天然塩、富士山の湧き水で作られた手飯なんと!桑ジャムを使って炊きました! 桑塩かけて…召し上がれ♪



桑の葉パスタソース
桑の葉の新芽をジェノベーゼ風に仕立てました。



< Mulberry Gourmet >

甲斐市にきたら絶対食べたい! 桑グルメ SELECTION 20

※価格表記はすべて税込参考価格です

The cafe L.D.K

ザ・カフェ・エル・ディー・ケー

1 桑のアイス 400円

2 桑の抹茶プリン 400円

3 桑の抹茶ドーナツ 180円

4 桑の抹茶アイス 400円

5 桑の抹茶クッキー 180円

高級サーブスエリア下り屋 レストラン山交

6 桑の抹茶アイス 400円

7 桑の抹茶プリン 400円

8 桑の抹茶ドーナツ 180円

9 桑の抹茶アイス 400円

10 桑の抹茶クッキー 180円

Patisserie TSUBO

11 桑の抹茶アイス 400円

12 桑の抹茶プリン 400円

13 桑の抹茶ドーナツ 180円

14 桑の抹茶アイス 400円

15 桑の抹茶クッキー 180円

full moon

16 桑の抹茶アイス 400円

17 桑の抹茶プリン 400円

18 桑の抹茶ドーナツ 180円

19 桑の抹茶アイス 400円

20 桑の抹茶クッキー 180円

きららベーカリー

21 桑の抹茶アイス 400円

22 桑の抹茶プリン 400円

23 桑の抹茶ドーナツ 180円

24 桑の抹茶アイス 400円

25 桑の抹茶クッキー 180円

中華料理 吉祥楼

26 桑の抹茶アイス 400円

27 桑の抹茶プリン 400円

28 桑の抹茶ドーナツ 180円

29 桑の抹茶アイス 400円

30 桑の抹茶クッキー 180円

松寿堂

31 桑の抹茶アイス 400円

32 桑の抹茶プリン 400円

33 桑の抹茶ドーナツ 180円

34 桑の抹茶アイス 400円

35 桑の抹茶クッキー 180円

クチーナ イタリアーナ

36 桑の抹茶アイス 400円

37 桑の抹茶プリン 400円

38 桑の抹茶ドーナツ 180円

39 桑の抹茶アイス 400円

40 桑の抹茶クッキー 180円

魚竹寿司

41 桑の抹茶アイス 400円

42 桑の抹茶プリン 400円

43 桑の抹茶ドーナツ 180円

44 桑の抹茶アイス 400円

45 桑の抹茶クッキー 180円

九十平林製パン

46 桑の抹茶アイス 400円

47 桑の抹茶プリン 400円

48 桑の抹茶ドーナツ 180円

49 桑の抹茶アイス 400円

50 桑の抹茶クッキー 180円

そば処 ことぶき

51 桑の抹茶アイス 400円

52 桑の抹茶プリン 400円

53 桑の抹茶ドーナツ 180円

54 桑の抹茶アイス 400円

55 桑の抹茶クッキー 180円

< ロールモデル >

甲斐市登美農園

~ 6月9日 日 ~
午前10:00~午後3:30
※桑の状況により日程を変更することがあります。

桑の実 摘み

※摘みの制限はありません。
※桑の実を食べながら摘み取りが楽しめます。
※桃んだ桑の実1パック(約200g)お持ち帰りOK!!
※2パック以上は100gあたり100円(税込)になります。

入園料 一般(税込) 600円 小学生(税込) 400円 幼児(税込) 無料

桑の実を国内で食べ放題!!

お楽しみサービスコーナー

~桑の警察飲み放題~
よく飲んだ桑の警察を自由に飲んでいただけます。

~警察待合コーナー~
実際に警察の様子を見直し、お母さんが桑の警察をあげる様子を体験したり、手に取って飲んでいただけます。

桑の葉料理

蒸しパン 1個 100円
桑の葉天ぷら 100円

※期間限定販売!!

甲斐市のスポット

施設名	営業時間	電話番号	お問い合わせ先
サンダーパーク	6:00	0551-28-7211	0551-28-7211
アピタ	20:00	0551-28-6111	0551-28-6111
サンダーパーク	6:00	0551-28-6300	0551-28-6300
サンダーパーク	6:00	0551-28-6300	0551-28-6300
サンダーパーク	7:00	0551-28-2000	0551-28-2000
サンダーパーク	8:00	0551-28-0000	0551-28-0000
サンダーパーク	8:00	0551-28-4881	0551-28-4881
サンダーパーク	5:00	0551-28-0000	0551-28-0000
サンダーパーク	12:00	0551-28-0000	0551-28-0000
サンダーパーク	12:00	0551-28-0000	0551-28-0000
サンダーパーク	20:00	0551-28-0000	0551-28-0000

甲斐の桑物語 商品紹介

桑の実を使った商品をご紹介します。

- 桑の実のアイス (30個入り)
- 桑の実のプリン (150g入り)
- 桑の実のパウダー (140g入り)
- 桑の実のアイス (100g入り)
- 桑の実のアイス (1500ml)

甲斐市商工会 山梨県甲斐市福南2710-1
TEL: 055-276-2385 FAX: 055-279-0187
http://kai-shokokai.jp/kuwanomi/ 甲斐市商工会

3 産業政策監調査研究報告の内容と施策との関連

第1号「紫波町認定農業者の定量分析と農地の需要見通し」

平成28年以降認定農業者は微減傾向、新規認定が少ないため高齢化、66歳～70歳が51経営体と最も多い、新規認定が無い場合2030年には70歳以下は46経営体（2020年対比38%）に減少、認定農業者の目標面積から見た農地の需要見通しは343ha

第2号「紫波町の農業経営体数の予測と農地の需給見通し」

紫波町の農業経営体数の予測値は、2030年には727経営体（2015年対比54%）に減少、離農に伴い供給される農地は872ha、認定農業者の需要見通し343haに対し528.6haが過剰になる恐れ、供給過剰率が大きいのは古館、赤沢、佐比内地域

供給過剰になる農地の有効活用方策として「農地有効活用リーディングプロジェクト」を設定し①子実用トウモロコシの産地化、②地域の農地を一元的に管理する一般社団法人の設立、③農業体験農園の設置を推進

第3号「農業体験農園シンポジウムの開催状況」

町内で農業体験農園の取組を増やすために古館農業体験農園の活動状況を紹介

第4号「古館農業体験農園の取組状況と盛岡市市民の農業体験農園の意向」

古館農業体験農園で得られた成果は①野菜作りと農家への理解促進、②食育の推進、③遊休農地の有効活用、④交流促進、⑤コロナ禍での余暇提供、⑥農医介護連携

第5号「紫波町の農業生産構造動向分析」

2015年～2020年にかけて紫波町の販売農家数は12.2%減少、県全体の減少率25.1%に比較すると減少率は小さい。紫波町は高齢化しても稲作に特化しながら営農を継続、また樹園地の面積を縮小しながら営農を継続している果樹類経営体が多い。

2020年の農業経営体数は1,178経営体であり、第2号の予測値に対し107%、（水分の特異値を除くと103%）と第2号の予測モデルの精度は高い。

おわりに

農村政策フェローは設置後2年間経過し、対応してきた業務を通じながら、対応可能なミッションと組織としてのポジショニングが明らかになってきました。

対応可能なミッションとしては、農政課業務の支援（人・農地プランの作成支援、目指すべき経営モデルの整理、新たな集落営農システムの調査研究）と調査研究に基づき、現状をブレークスルーするための新たなリーディングプロジェクトの創設と試行です。

現在、リーディングプロジェクトとして実行しているものは、「農地有効活用リーディングプロジェクト」としての ①子実用トウモロコシの産地化（&農業振興室）、②地域の農地を一元的に管理する一般社団法人の設立（&農政企画室）、③農業体験農園の設置です。

令和3年度に創設を予定しているものは、「環境循環リーディングプロジェクト」としての ①漆を活用した新たな環境産業の創造（&環境課林務室）、②発酵技術を活用した循環型農業創造（&農政企画室）です。

また、将来創設しようと考えているものは、「農業と健康長寿プロジェクト」で、もち大麦と桑を紫波町で生産し、紫波町で消費することにより、紫波町民の健康長寿につなげていこうというものです。

産業政策監の組織としてのポジショニングは、調査研究に基づき目指すべき将来のビジョンを整理し、関係者の意見を踏まえながらリーディングプロジェクトを創設し先行的に点的に試行することです。

リーディングプロジェクトの成果を踏まえ産業部の政策パッケージとして面的に推進することを目指しています。

産業政策監調査研究報告は紫波町のホームページ産業政策監に掲載しています。

QRコード

検索キーワード

紫波町産業政策監



産業政策監調査研究報告 第6号

農村政策フェローの活動状況

～ 令和元年度・2年度活動実績及び令和3年度計画 ～

執 筆 農村政策フェロー 小川勝弘

2021年2月発行

発 行 岩手県紫波町 産業部 産業政策監

連絡先 〒028-3392 岩手県紫波郡紫波町紫波中央駅前二丁目3番地1
電話 019-672-2111 (代表)

紫波町ホームページ <https://www.town.shiwa.iwate>

本調査研究報告書の無断転用・使用はできません。本調査研究報告書の内容を使用する場合は、事前の許可が必要です。